

# 宮城県日中友好協会

TEL・FAX 022-274-3811

E-メール jcfa-miyagi@rose.plala.or.jp

ホームページ <https://miyagi-jcfa.com/>



10月、(神無月 かなづき)。日本中の八百万の神々が、出雲(島根県)に集まり会議を開き、他の国には神様がいなくなることから、神無月と呼ばれてきましたが、会議では、コロナ、インフルエンザ、猛暑、温暖化、農水産物の不良等が議題に上がると思うが、どのような対応をしてくれるのか、気にかかる。

## 1. 10月の行事予定

日 時	行 事 名	場 所
10月1日 (日)	「富谷宿・街道まつり」10:00～ 富谷市日中友好協会では焼き小籠包等を販売	富谷市中央公民館周辺
10月14日 (土)	第4回仙台中秋明月祭 11:30～14:00 参加費:3000円 宮城県華僑華人連合会主催	仙台国際センター 2階桜 月餅と料理を食べながら中国の伝統芸能・歌舞を鑑賞し交流を深める。
10月19日 (木)	①魯迅先生逝世八十七周年碑前献花式 10:30～ ②留学生との昼食交流会 12:00～ 参加費:2000円 ※駐車場は、入って左側芝生の部分が使えます。	①仙台市博物館 魯迅之碑前 ②仙臺緑彩館
10月28日 (土)	全日本中国語スピーチコンテスト東北大会 13:30～17:00 青年委員会主管	日立システムズホール仙台 (仙台市青年文化センター)

## 2. 全日本中国語スピーチコンテスト優勝者団に随行して【青年委員会 吉澤千明】



9月6日から10日まで全日本中国語スピーチコンテスト優勝者団の随行で中国に行ってきました。

当初は南京と北京を訪問予定でしたが、渡航2日前に北京だけの訪問と変更になりました。今回で8度目の随行でしたが、一人で随行するのは初めてでした。

事前にオンラインでビザ申請をして新潟まで指紋登録に行かなければならないなど大変なこともありましたが勉強になりました。

山形県在住の松木裕花さんから感想をいただきました。以下松木さんの感想です。

コロナ禍となって以来、久しぶりの訪中の機会をいただき、大変感謝しております。

コロナ前にも訪れたことがあり、留学もしていた北京でしたが、今回の訪中ではこの数年間での変化をたくさん感じました。以前よりも道やトイレがキレイに整備され、小さいお店でもオンライン決済が使えるとその普及率の高さに驚きました。また郊外には大きなマンションが立ち並び、オリンピック関連や歴史記念館等の新しい施設もたくさんできていました。今現在の最新の中国の姿を自分の目で見る事ができ、とても学びの多い旅だったと感じます。

また、日本各地に住む全国大会優勝者と知り合えた素敵な機会にもなりました。それぞれの中国語に対する思いを聞き、現地で通訳をする姿を見て、私もこれからより一層頑張ろうと思いを新たにしました。このような貴重な機会をいただくことができ、本当に感謝しています。今回の経験を糧に、これからも日中友好のために自分にできることを考えて行動していきたいと思えます。

## 3. 日中平和友好条約締結45周年記念吉林省人民対外友好協会主催青少年交流事業について

吉林省人民対外友好協会は日中平和友好条約締結45周年を記念して青少年交流事業を計画し、仙台市の国際友好都市長春市を通じて仙台市に青少年を迎えたいとの意向があったので、仙台市から推薦依頼のあった仙台市日中友好協会は6名の大学生を推薦し、9月7日(木)～13日(水)まで吉林省を訪問したので、その感想を書きいただきました。

### 『長白山と多民族国家中国』【加藤 大】

中国と北朝鮮の国境に跨る霊峰長白山の頂には、天池というカルデラ湖がある。私は一週間の旅程の中

で、長春から琿春、延吉と色々なところを移動してきた。中国の国土はあまりにも広大無辺で、その国勢もまたいよいよ盛んであり、文化的な相違やその装飾の豪華絢爛たるに至るまで、その魅力が尽きることは



はない。しかしその天池の景色は、それらの中でも特に印象の深いものであった。長白山の山頂を吹きすさぶ風は身を切るほど冷たく繊細で、それは周辺の岩肌に共鳴して重く霊的な響きを造成しながら、天池の上方に立ち込める雲気をあてもなく運んでいく。雲気にその淵を陰らせていた天池には、人を静寂安寧にさせる不可思議な靈気があった。しかし、ひとたびその雲気が解け、強い日差しが周辺の岩壁の陰影を濃くすると、天池は紺碧に包まれあたりには温かな陽気が立ち込めてくる。

この美しいカルデラ湖を湛える長白山は、歴史的に朝鮮族と満州族の信仰の対象であり、長白山という名前も満州族の言葉を漢訳したものであるらしい。中国は国内に56もの民族のある、いわゆる多民族国家である。これは漢民族のあまりの多量ゆえに忘れられがちであるが、実際に私も一週間の訪中の中で延辺朝鮮族自治州を訪れるまでは、多民族国家としての中国のイメージには実感がなかった。しかし、延辺のいたるところにあるハングルや、いたるところで聞こえる朝鮮語を聞けば、いかにイメージと合わないと言っても受け入れざるを得なかった。

日本はその地理的な理由から古くから中国との接触があり、それは王朝の時代が終焉した現代に至るまで活発になされてきた。その長い道のりの中で、日本人はあらゆるものを中国から受け入れ、独自の文化を発展させてきた。それゆえに中国に対するイメージは様々な形として存在してきた。それらはたいてい論語や三国志といった読みものや、中国料理や服飾といった文化的なものであるが、多民族が集まり、豊かな文化を醸成してきた多民族国家としての中国というイメージ、もしくは視点を持つ日本人は多くないだろう。たしかに多民族国家としての中国は歴史的に多くの艱難や曲折があった。しかし、それでもなお長白山の荘厳霊威な景色を一度でも望めば、あなたが何人であろうと、その多民族の揺籃の美しさに息を呑むことができるだろう。中国の古い成語に、四海兄弟というものがある。その意味は読んで字のごとく四海、すなわちこの世界にいるすべての人々は皆兄弟のように互いに礼節を以て敬い慈しむことができるという意味である。今回の訪中は一週間という長期にわたり、中国側から非常に暖かいおもてなしを頂いた。私は改めてその意気に感じ入り、深く四海兄弟の精神をもってこれからもゆるぎない仙台と吉林の友好、そして日中の友好を担っていきたい。

#### 4. 令和5年度大崎市日中友好協会通常総会について（大崎市日中友好協会事務局長 菅井富士夫）

令和5年度大崎市日中友好協会通常総会は、アインパルラ浦島に於いて、9月18日4年ぶりに開催致しました。

県協会からは、石橋副会長が出席、祝辞を述べられ、各議案も通過 承認され、無事に終了致しました。総会終了後に開かれた懇親会のアトラクションでは、石巻出身の王拓希さんによる「川劇変面」の演技が披露され、参加者全員の拍手喝采を受けておりました。

また、中国学友会からは、会長・副会長・企画部部長の3名が出席、会員との懇談等を通し互いの親睦を深め、文字通りの日中友好の半日でした。

